NIE特集

Newspaper In Education

コアジサシ
どきどき小学生
中
和太鼓

中野小

学校名　仙台市立中野小学校　校長　伊藤　公一
所在地　仙台市宮城野区中野西原152　児童　155人
電話　022(258)2365

舞い戻れコアジサシ

蒲生干潟の歴史を探ろう！

私たちの学校の近くには、蒲生干潟という野鳥が飛来する場所があり、総合的な学習の時間に干潟の生き物について調べたり、野鳥を観察したりしています。しかし、地域の方からは、昔の干潟では今よりもっと多くの野鳥を見ることができたという話を聞きます。そこで、蒲生干潟の昔の様子について調べてみることにしました。

蒲生干潟で、片桐さんのお話を聞く編集委員

私たちは、代々蒲生地区に住み、昔の蒲生干潟をよく知る宮城野区連合町内会会長の片桐睦男さんにお話を伺いました。

知り隊

環境守る大切さ実感

まず驚いたのは、蒲生干潟はもともとは七北田川の一部だったことです。「昔は今の蒲生地区まで水が来ていて、祖父は縁側からつりをしていた」と教えてくださいました。

当時は、今では少なくなったカニやゴカイなどの生き物も多く、地域の人はそれを採って生活していました。また、今では見られないコアジサシやヒバリなどの鳥の卵もたくさんあったそうで、当時の干潟には本当に多くの生き物が生息していたことを知りました。

片桐さんは、中野小のシンボルバードのコアジサシが干潟に来なくなった理由を二つ教えてくれました。

一つは、鳥のえさが減ったためです。「昔は、干潟に小魚のえさになる生き物がたくさんいたので、小魚が多く、さらにそれをえさとするコアジサシもたくさん飛来してきた」と残念そうに話してくださいました。

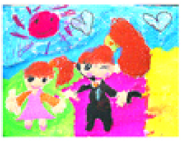
二つ目は、人や動物の出入りが多くなったためです。「干潟の海岸にはたくさんのサーファーが訪れる。また犬の散歩をする方も多く見られる。人や動物の出入りが多くなったことでコアジサシも警戒し、飛来しなくなったのではないか」とのことでした。

◇　◇

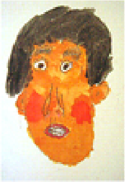
今回の取材で、昔の干潟の様子を知っただけでなく、環境を守ることの大切さを身にしみて感じました。私たちは年に1回の「クリーン蒲生」活動などで地域の方々と清掃活動に取り組んでいます。いつの日かコアジサシが戻ってくることを願って、私たちの蒲生干潟をこれからもきれいにしていきたいと思います。

文・佐藤文香、鈴木七菜子、鈴木太陽、千葉優季奈、本郷衿子（6年）

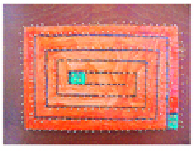
うきうきキャンバス



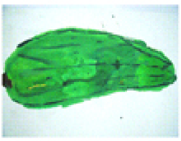
できたらいいなこんなこと
1年・小竹百花



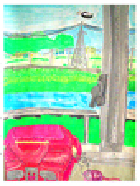
ぼくの顔
2年・阿部宏杜



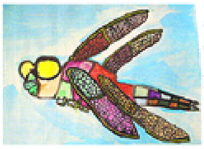
コロコロ迷路
3年・小野真琴



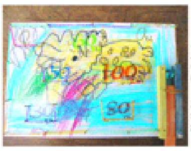
しぶい色のヘチマ
4年・鈴木亜依莉



教室から見た七北田川
5年・鈴木美愛花



トンボ
6年・長谷川慧大



ビー玉遊び
たんぽぽ・針生航大

教え隊

中野小太鼓

学区民運動会で和太鼓を披露＝昨年9月12日

伝統の響き受け継ぐ

中野小には、伝統的な活動として、和太鼓の「中野小太鼓」があります。運動会やコミュニティーセンター祭りなどで披露し、地域の方にも喜ばれています。

この活動は、上学年が下学年に教えて引き継いできました。４年生から簡単なリズム打ちの練習を始め、５年生では力強くたたく練習と、学年が上がるにつれて演奏レベルも上がります。

６年生は、中野小太鼓の響きをずっと受け継いでいってほしいと、精いっぱい教えています。

文・小野寺望恵、片桐海斗、篠沢涼也（６年）

編集後記

この新聞作りをして、中野小の伝統である和太鼓のことや、貴重な自然が残っている蒲生干潟のことを読者のみなさんに伝えることができうれしく思います。私たちは今回片桐睦男さんのお話を聞き、蒲生干潟の自然は私たちが守っていかなければならないと実感しました。

中野小のシンボルバードのコアジサシは、宮城県亘理町の砂浜では見られるそうです。これから総合的な学習のまとめとして、「コアジサシが蒲生干潟に戻ってくるためには」をテーマに考えていきます。この記事を読んだみなさんにも自然環境に関心をもっていただけたらいいなと思います。

〈編集委員〉小野寺望恵、片桐海斗、佐藤文香、篠沢涼也、鈴木太陽、鈴木七菜子、千葉優季奈、本郷衿子（6年）
題字デザイン　平山ひかる、鎌田里玖、鈴木優麻（6年）
〈指導教諭〉阿部みゆき、菊地美紀、竹下修央

言い隊

■戦争やめ命を大切に■

今、世界で内戦を含む戦争をしている国は、194カ国のうち45カ国にも上ります。しかし、戦争を防ぐ有効な手段は見つかっていません。戦争が起きるのは、通常、政治的な理由からです。

平和とは何か。それは戦争のない状態だと考えると、日本は今、とても平和だと言えます。世界で最も平和な国ランキングというのがあり、日本は3位にランクされています。最下位は4年連続でイラクです。イラクでは、今も戦争が続いています。戦争をなくすには、一人一人の命を大切にする心をもつことが大事です。私は一刻も早く、戦争のない平和な国が増えることを願っています。

（6年・平山ひかる）

■いじめなくす勇気を■

いじめは、子どもから大人まで幅広い世代に見られます。その内容はさまざまで、たくさんの人が苦しんでいます。そんな人を一人でも減らすため、みんなでいじめをなくしていきましょう。

いじめは、ちょっとしたことが原因で始まります。いじめる側は、相手の気持ちや体や持ち物などを勝手に傷つけて困らせます。いじめられている側は逆らえず、だれにも相談できず、時には死に追いやられることもあります。いじめる側に自覚がなくても、いじめられていると相手が感じたなら、紛れもなくいじめです。身近にこのような人を見つけたら、勇気を出して立ち上がりましょう。

（6年・鈴木七菜子）